

しずおか自動運転 show CASE プロジェクト 未来の乗り物を 体験してみませんか？

問合せ先 統合政策課政策推進係 ☎2212 県地域交通課 ☎054-221-3194

市では昨年度に引き続き、静岡県、交通事業者と連携して地域課題の解決や利便性の向上に向けた新たな交通システムの検討を行うため、自動運転の実証実験を行います。



実験期間 12月7日(月)～12月15日(火)

内容 自動運転の体験試乗(無料)
※1周30分程度

乗降場所 ①下田駅 ②下田公園
③下田メディカルセンター

運行頻度 8周遊/日

乗車定員 乗務員 3名 乗客 4名

時	下田公園発	下田 MC 発	下田駅発	下田公園着
10	00 30	05 35	15 45	15 45
11	00 30	05 35	15 45	15 45
13	00 30	05 35	15 45	15 45
14	00 30	05 35	15 45	15 45

この実証実験を通じて、今後の交通システムのあり方、可能性を検討していきたいと考えていますので、多くの方のご利用をお待ちしています。

また、速度の遅い自動運転車両が走行し、皆さまにご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いします。

今年度の実験ポイント

- ①車両の変更
- ②自動で車両を追い抜き
- ③車両からメッセージを表示

利用方法



- 1 QRコードを読み込む
- 2 ニックネームとメールアドレスを入力
- 3 届いたメールのURLにアクセス
- 4 乗車希望日・バス停・乗車時間を選択し、予約完了

地域おこし 協力隊が 就任しました！



10月29日、平成29年12月以来となる「地域おこし協力隊」に新たに2人が就任しました。

委嘱状交付式では、松木市長が委嘱状を手渡し「職歴、人生経験を活かし、下田に大きな足跡を残してほしい」と激励しました。

2人は、今後市の魅力発信や地域活性化のために活動していきます。

「地域おこし協力隊とは？」

人口減少・高齢化の進行が著しい地方で、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行うとともに、その地域への定住・定着を図ることで、地域力の維持・強化を図っていく制度です。

●志望動機

出身は京都で大学卒業後、4年ほどオーストラリアに住んでいました。オーストラリアでは、オーガニック農場、サーフボード工場で働きつつ、現地で出会ったデザイナー、映像作家、写真家たちと活動を共にしていました。

現在は、映像・デザイン・Webページ・イベント等の企画制作会社を運営しています。帰国後、東京、湘南と拠点を移し、昨年に初めて訪れた下田で、美しい自然や下田の方々の温かさに触れ、移住を決断しました。

●意気込み

仕事のノウハウを活かして、綺麗な海、山、温泉、美味しい海鮮など、多くの観光資源、特産物がある下田の魅力を国内外に発信し、地域に貢献していければと思います。まずは、より下田のことを知りたいので、様々な場所に訪れ、多くの人に会い、色々なお話を聞かせていただきたいです。どうぞよろしくお願いします。



あおき しん
青木 真さん

中心市街地活性化部門

年齢 35歳 出身 京都府



たなか ゆうか
田中 裕香さん

土と木の恵み、田畑と森林の力を活かした豊かな
里山づくり部門

年齢 46歳 出身 藤枝市

●志望動機

趣味の鮎釣り伊豆に訪れた時に会ったおとり屋さんから冬の伊豆の狩猟の話聞き、生態系、農作物、人の生活環境への鳥獣被害、ハンターの減少を知りました。早速、狩猟免許、第一種銃猟を取得し冬は週末ハンターをしていた折、今回、下田市のまちおこしテーマに鳥獣被害対策が含まれていたことが志望のきっかけとなりました。

元々、健康美容事業に携わってきましたが、思いの内は、真の健康美容とは表面的なケアではなく、食や環境の見直し、自然と触れ合う事だということでした。

伊豆は子供の頃から家族旅行でたくさん訪れた思い出深い大好きな場所でもあります。下田市は海釣り訪れた時の景色の美しさに魅せられ、この機会に移住する事決めました。

●意気込み

豊かな里山づくり部門の協力隊員として、美しい自然豊かなこの町の守っていくもの、活性化できることを発見して追求していきたいと思っています。地域を知り馴染む事から始めて、たくさんの方と繋がり、オリーブ畑を継承しながら、鳥獣被害軽減を目指して地域の流通を図る活動をしていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いします。